

『讃歌－長谷』

「讃歌－長谷」は平成26年（2014年）5月に伊那市で行われた、「南アルプス国定公園指定50周年記念式典」のミニコンサートの中で長谷小学校の全校児童が発表する曲として、当時長谷小学校の音楽専科として勤務していた小口稔子教諭が作詞・作曲した歌です。

四季折々に美しい姿を見せてくれる自然豊かな長谷。
深い雪におおわれても、そこに住む人の温かさが雪をもと
かし春を呼ぶ。
長い歴史を振り返ったとき多くの悲しみや苦しみがあった。
しかし、それを乗り越え微笑みを忘れない長谷の人々。
そんな素晴らしい長谷を多くの皆さんに知って欲しい。
そして、子どもたちに、この地に生まれたことを誇りに思
い、未来に伝えていって欲しい。

「讃歌－長谷」には、作者のこんな願いが込められています。

「讃歌－長谷」は、今では、入学式や卒業式、始業式や終業式などはもちろん、さまざまな場面で歌われています。第二の校歌、あるいはそれ以上と言っても良いかもしれません。子どもたちもこの歌が大好きです。

「讃歌－長谷」は、小学生はもちろん、卒業生も、保護者の皆さんも、そして地域の皆さんも歌うことのできる、長谷小学校の、そして長谷という地域のシンボルともいえる曲です。

子どもたちは、この歌を歌うたびに、長谷の素晴らしさを感じてくれています。そして、子どもたちの美しい歌声が、長谷の素晴らしさを、多くの人に伝えています。

長谷小学校の大切な歌として、これからもずっと歌い続けていきたいと思えます。